

## 日中韓協力25周年記念セミナー

### 「変革の時代の三国間の政治的相互信頼をいかに促進するか:大使間の対話」 セッションにおける金杉大使発言

2024年10月26日

御列席の皆さま、こんにちは。日本大使の金杉憲治です。この会議にお招き下さった、中国外交学院、日中韓協力事務局、吉林省の関係の方々に感謝申し上げます。今日私が述べたいのは、日本が日中韓の対話と協力を一貫して重視しているということです。

私自身、日中韓協力と不思議な縁に恵まれてきました。今から27年前、私はマレーシア駐在の日本の若手外交官として当時のASEAN議長国であったマレーシア政府との間で地域の平和と繁栄をいかに強化していくかについて様々なやりとりを行う機会がありました。中韓両国の協力を得てこれが結実し、1997年12月にクアラルンプールで初めて開かれたASEAN+日中韓の首脳会議につながりました。

その2年後の1999年、日中韓の首脳が初めて単独で集まり朝食会を行いました。これは自然な流れであり、それが今に続く日中韓協力の始まりです。この提案を行ったのが日本の小淵総理だったのは大変良い思い出ですし、朝食会の場で、当時の中国指導者であった朱鎔基総理からWTO加盟に向けたお話を伺ったのも大変印象深いことでした。

さらにその20年後、つまり日中韓協力20周年の年、私は再び日中韓サミットを準備する幸運に恵まれました。2019年12月、四川省成都での日中韓サミットです。この時には、当時の中国指導者であった李克強総理が安部総理を成都郊外の都江堰（とこうえん）や青城山（せいじょうさん）に案内し、昼食にも招いていただきました。中国の指導者のホスピタリティに深く感動したことを覚えています。こうしたホスピタリティはこの吉林省や外交学院の皆さんも同じだと改めて感じているところです。

成都から5年、コロナ禍を経て、日中韓サミットが本年5月に韓国ソウルで開かれました。ホスト国韓国の努力に改めて感謝します。日中韓協力

を一貫して重視する日本政府として、また私個人としても、このプロセスの再活性化を歓迎します。

日中韓協力25周年を迎えた現在、議長国のバトンは韓国から日本に受け継がれました。この機会に、日本政府の基本的な考え方を述べたいと思います。

第一に強調したいのは、未来志向の実務協力です。日中韓三国は、長い歴史と文化を共有し、地域と世界の安定と繁栄の責任を共有しています。未来志向で、実務的な協力を焦点を当てていくことが重要です。例えば、少子高齢化は日中韓が直面する共通の課題です。我々三国が東アジアから世界に対し、持続可能な社会のモデルを示していければと思います。

第二に、日中韓三国間では立場が異なることもありますが、だからこそ、人的交流が重要です。人的交流は、いかなる時代でも国と国をつなぐ鍵です。特に、将来を担う若者を中心に、重層的な人的交流を進めていくこと、これこそが日中韓の未来に向けた相互理解と信頼を育む礎です。5月にソウルで3首脳は2025～26年を「日中韓文化交流年」とすることで一致しました。これを日本議長の下で充実させていく考えです。

第三に、地域情勢、特に朝鮮半島情勢をめぐる意思疎通の強化が重要です。日本政府として、北朝鮮の核・ミサイル活動や露朝軍事協力の進展を深く懸念しています。朝鮮半島の平和、安定、そして繁栄の維持は、三国の共通の利益であり、責任でもあります。三国で前向きな努力を継続していくことを希望します。また、拉致問題の即時解決に向けた中韓の引き続きの理解と支援に感謝します。

実のある成果を得られるよう、日中韓の政府事務レベルの議論は既に始まっています。中国外交部では本日ご出席されていた孫衛東副部長が重要な役割を果たしておられます。今後、日中韓の外相会議、各分野の閣僚会議、そしてサミットにつなげていけるよう、議長国として、中韓両国との意思疎通を引き続き密にしていきたいと思えます。

日中韓協力は政府だけで行うものではありません。この場にご出席の各位を含む各界からの叡智が不可欠です。本日、活発な議論がなされることを期待します。

三国間の信頼関係を強化するためには、二国間関係も忘れてはならず、最後に、日中二国間の関係に一言触れたいと思います。

先日、石破総理と李強國務院総理がラオスで会談し、「戦略的互惠関係」を包括的に推進し、「建設的かつ安定的な関係」を構築するという方向性を確認したことは重要です。日中間には大きな協力の潜在力があります。同時に、様々な課題と懸案もあり、最近では蘇州や深圳での痛ましい事案もありました。日中両政府の努力により、こうした課題を克服して両国の国民が日中関係発展の果実を得られることが重要です。引き続き孫衛東副部長を始め、中国政府と共に努力していく決意を申し上げ、私の発言とします。

ありがとうございました。

以上